



TITLE:

<紹介> 禮縣秦西垂文化研究會・禮縣博物館編『秦西垂文化論集』

AUTHOR(S):

吉本, 道雅

---

CITATION:

吉本, 道雅. <紹介> 禮縣秦西垂文化研究會・禮縣博物館編『秦西垂文化論集』. 東洋史研究 2006, 64(4): 779-783

ISSUE DATE:

2006-03

URL:

<https://doi.org/10.14989/138174>

RIGHT:

## 紹介

禮縣秦西垂文化研究會・  
禮縣博物館編

### 『秦西垂文化論集』

吉 本 道 雅

『史記』秦始皇本紀の末尾に、秦襄公（前七七七～前七六六）から二世皇帝（前二〇九～前二〇七）までの王名・都邑・在位年数・墓葬などを簡潔に記した王名表が附載されている。秦本紀の「寧公」を「憲公」に作るが、一九七八年に陝西省寶雞縣楊家溝公社太公廟で出土した秦公鐘・罍も「憲公」に作り、「寧公」が「憲公」の誤寫であったことが判明した。この王名表は『史記』の本文に匹敵する重要な資料といえる。その冒頭には、「襄公立つ。享國十二年。初めて西時を爲る。西垂に葬らる。文公を生む。文公立つ、西垂宮に居る。五十年にして死し、西垂に葬らる。靜公を生む。」とある。

「西垂」を『史記正義』秦本紀の引く

『括地志』は前漢の隴西郡西縣とする。西縣は、甘肅省天水市の西南六〇軒あたりに推定される。ここから二〇軒ほど南、西漢水北岸の禮縣大堡子山に大墓二基（M2・中字形・M3・目字形）があったが、一九八七年より骨董商が出没し、一九九二～一九九三年に大規模な盗掘が行われ、一九九四～一九九五年、アメリカやフランスで「秦公」の銘文をもった青銅器などの文物が出回るようになり、日本のM.I.H.O.ミュージアムが「秦公」「秦子」の銘文をもつ鐘を購入したとのことである。甘肅省文物考古研究所は、一九九四年三～十一月、緊急發掘を行ったが、二基ともすでに盗掘されていた。これに先立ち、一九九三年秋に禮縣の南の西和縣の公安局は、盗掘犯を檢舉して七件の青銅器を押収し、同年一〇月、上海博物館の馬承源館長は、香港に送回った盗掘青銅器六件を買い戻した。さらに一九九八年大堡子山の東三軒、西漢水南岸の圓頂山で盗掘が發生し、一九九八年二～六月、二〇〇〇年五～七月、貴族墓四基が發掘された（李朝遠一九九六・戴春陽二〇〇〇・松丸道雄二〇〇二・李學勤二〇〇四・祝中熹二〇〇四）。

秦本紀によれば、秦の開祖・非子（？～前八五八）は秦邑（甘肅省清水縣）を與えられて「附庸」となり、その子孫の秦仲（前八四四～前八二三）は周宣王（前八二七～前七八二）の大夫として西戎を伐つて戰死し、その子の莊公（前八二一～前七七八）は西戎を破つて西垂大夫に任ぜられた。襄公・文公（前七六五～前七一六）を経て、憲公（前七一五～前七〇四）は平陽（陝西省寶雞縣）に遷都している。建國期の秦君の墓所については、上掲の秦始皇本紀附載王名表と秦本紀とで矛盾がある。二次的な編纂物としての性格の強い秦本紀よりも王名表に従うべきであると考えるが、ここでは煩雑な考證を示す餘裕がない。結論的にいえば、大墓二基の墓主については、莊公の可能性もなお否定できないが、襄公・文公に當てることが現時點では穩當な判斷と思われる。

大堡子山・圓頂山秦墓の發掘が、秦建國期に對する注目を集めたことを承け、禮縣人民政府は、二〇〇〇年七月に「全國秦人文化座談會」を開催し、二〇〇一年四月には、北京大學賽克勒考古與藝術博物館で「甘肅禮縣秦西陵區銅器特展」が開かれた。

禮縣博物館・禮縣秦西垂文化研究會は、『秦西垂陵區』の編纂を開始し、二〇〇四年一月、文物出版社より出版された。大堡子山・圓頂山出土器物のほか、禮縣出土のその他の秦關係器物をも廣く收録する充實した内容となっている。

本書『秦西垂文化論集』は『秦西垂陵區』の姉妹編に當たる。兩書の「後記」がともに二〇〇三年一月附になっているところから同時進行で編纂されたものようである。本文中には記されていないが、

「編後記」によれば、本書は「歴史文獻摘録」「今人論文總匯」の二部より成り、後者は「族源争鳴」「西垂發祥」「都陵研究」「器銘考釋」「發掘紀實」の五類に分かれる。全體的な動向や個々の論文に對する立ち入った批評は、中國における先秦史研究の一般的な問題點にも關わることであり、紙幅の制約上控えざるを得ないが、本書が中國における秦史研究の一斑を窺うのに有益な書物であることは間違いない。

以下目録を轉載するが、日本の慣行に従って表記を改めている。

# 1 袁仲一「序言」、2 任登宏「前言」

「歴史文獻摘録」 3 「尚書・堯典（摘）」、4 「史記・秦本紀（摘）」、5 「竹書紀年（摘）」、6 「水經注・漾水（摘）」、7 「讀史方輿紀要（摘）」、8 「秦會要訂補・都邑（摘）」、

「族源争鳴」 9 王國維「秦都邑考」（『觀堂集林』十二）、10 蒙文通「周秦少數民族研究（摘）」（『禹貢』半月刊六・七）、【一九三六】、11 衛聚賢「趙秦楚民族的來源」（『中國民族的來源』、『古史的研究』三、【一九三七】）、12 黃文弼「嬴秦爲東方民族考」（『史學雜誌』創刊號、一九四五）、13 陳秀雲「秦族考」（『文理學報』一一二、【一九四七】）、14 翦伯贊「秦族的淵源與秦代封建專制主義國家的創立」（『秦漢史』、北京大學出版社、一九八四）、15 林劍鳴「秦人早期歷史探索」（『西北大學學報』一九七八—）、16 熊鐵基「秦人早期歷史的兩箇問題」（『社會科學戰線』一九八〇—二）、17 黃灼耀「秦人早期史迹初探」（『學術研究』一九八〇—一六）、18 伍仕謙「讀《秦本紀》札記」（『四川大學學報』一九八一—二）、19 何漢文「嬴秦人起源于東方和西遷情況初探」（『求索』一九八一—四）、20 林劍鳴「周公東征和嬴姓西遷」（『文史知

識』一九八二—一一）、21 段連勤「關於夷族的西遷和秦嬴的起源地、族屬問題」（『人文雜誌』一九八二增刊・先秦史論文集）、22 高福洪「秦人族源芻議」（『內蒙古師範學報』一九八二—三）、23 劉慶柱「試論秦之淵源」（『人文雜誌』一九八二增刊・先秦史論文集）、24 何光岳「嬴姓諸國的源流與分布」（『信陽師範學院學報（哲社版）』一九八四—一三）、25 韓偉「關於秦人族屬及文化淵源管見」（『文物』一九八六—四）、26 嚴賓「秦人發祥地芻論」（『河北學刊』一九八七—六）、27 趙化成「尋找秦文化淵源的新線索」（『文博』一九八七—一）、28 林劍鳴「秦趙同源新證」（『河北學刊』一九八八—三）、29 李江浙「秦人起源范縣說」（『民族研究』一九八八—四）、30 常青「秦文化淵源初探」（『北京大學研究生學刊』一九八八—一）、31 尚志儒「早期嬴秦西遷史迹的考察」（『中國史研究』一九九〇—一）、32 何清谷「嬴秦族西遷考」（『考古與文物』一九九一—五）、33 王玉哲「秦人的族源及遷徙路線」（『歷史研究』一九九一—三）、34 楊東晨・楊建國「簡論西方嬴姓國的由來」（『秦陵秦俑研究動態』一九九二—一）、35 楊東晨「周代東夷嬴姓族的西遷和嬴姓國的

- 業迹」(同一九九二·周秦專號)、36汪勃·尹夏清「贏秦族西遷對秦文化形成的作用」(《文博》一九九三·五)、37同「關於秦人族源和秦文化淵源的幾點認識」(《秦文化論叢》三、【一九九四】)、38郭向東「贏秦西遷問題新探」(《西北大學學報(社科版)》一九九五·三)、39黃留珠「秦文化二源說」(同)、40牛世山「秦文化淵源與秦人起源探索」(《考古》一九九六·三)、41祝中熹「陽鳥崇拜與「西」邑的歷史地位」(《絲綢之路》【一九九八學術】專輯)、42田靜·史黨社「《山海經》與秦人早期歷史探索」(《華夏文化》一九九九·二)、43史黨社「秦人早期歷史的幾箇地理問題——以錢穆說為中心——」(《秦文化論叢》九、【二〇〇二】)、44同「秦人早期歷史的相關問題」(同)、
- 【西垂發祥】45馬非百「國君紀事(節選)」(《秦集史》、中華書局、一九八二)、46李學勤「秦國發祥地」(《綴古集》、上海古籍出版社、一九九八)、47葛承雍「秦隴文化的地域特色與歷史地位」(《人文雜誌》一九九八·一)、48徐日輝「秦建國前活動考察」(《秦俑秦文化研究》、《陝西人民出版社》、二〇〇〇)、49同「同(續)」(《秦文化論叢》八、【二〇〇一】)、50同「對秦嬴「西垂」及相關問題的考察」(《陝西歷史博物館館刊》七、【二〇〇〇】)、51雍際春「論天水秦文化的形成及其特點」(《天水師範學院學報》二〇〇〇·四)、52張天恩「禮縣等地所見早期秦文化遺存有問題題芻論」(《文博》二〇〇一·三)、53徐日輝「甘肅東部秦早期文化的新認識」(《考古與文物》二〇〇一·三)、54康世榮「秦西垂文化的有關問題」(《隴右文博》二〇〇二·二)、55同「祁山稽古」(全國十三屆諸葛亮研討會論文、【二〇〇五】)、
- 【都陵研究】56馬非百「都邑表」(《秦集史》、《中華書局》、一九八二)、57同「陵墓志」(同)、58李零「《史記》中所見秦早期都邑葬地」(《文史》二〇、【一九八三】)、59康世榮「秦都邑西垂故址探源」(《禮縣史志資料》一九八五·一)、60王世平「也談秦早期都邑大丘」(《陝西歷史博物館館刊》二、【一九九五】)、61陳昭容「談甘肅禮縣大堡子山秦公墓地及文物」(《大陸雜誌》九五·五、【一九九七】)、62王輝「也談禮縣大堡子山秦公墓地及其銅器」(《考古與文物》一九九八·五)、63陳平「淺談禮縣秦公墓地遺存與相關問題」(同)、64徐衛民「天水附近秦都城考論」(《西北大學史學叢刊》【四】、三秦出版社、二〇〇一)、65同「秦成帝王陵四大陵區及其形成原因」(《秦文化論叢》九、二〇〇二)、66雍際春「秦人早期都邑西垂考」(《天水行政學院學報》二〇〇〇·四)、67劉明科「秦族源及早期都邑、葬地歧說集舉」(《陝西秦文化研討會交流論文》、68祝中熹「再論西垂地望——兼答雍際春先生」(《絲綢之路·文化》總第七期)、69同「試論秦先公西垂陵區的發現」(《秦俑秦文化研究》、《陝西人民出版社》、二〇〇〇)、70陳澤「西垂西時考」(《禮縣文史資料》四)、71李自智「秦九都八遷的路線問題」(《中國歷史地理論叢》一七·二、【二〇〇二】)、72秦漢「秦都城研究的現狀及前瞻」(《秦文化論叢》八、【二〇〇一】)、73祝中熹「禮縣大堡子山秦陵墓主再探」(《周秦社會與文化研究》、陝西師範大學出版社、二〇〇三)、74張天恩「試說秦西陵區的相關問題」(《考古與文物》二〇〇三·三)、
- 【器銘考釋】75王國維「秦公敦跋」(《觀堂集林》十二、【一九二三】)、76郭沫若「秦公毀頌讀」(《殷周青銅器銘文研究》、【一九三一】)、77馬敘倫「石鼓為秦文公時

物考」(國立北平圖書館館刊)七一一、  
【一九三三】、78商承祚「秦公毀跋」(「天水出土秦器匯考」,一九四四)、79胡受謙「天水出土秦器匯考序」(同)、80馮國瑞「秦公毀器銘考釋」(同)、81同「秦公鐘器銘考釋」(同)、82同「秦車輶圖說」(同)、83劉文炳「十有二公後之秦公說」(同)、84同「秦公毀及秦盃和鐘兩銘爲韻文說」(同)、85同「與馮中翔論秦公毀書」(同)、86李學勤「秦公簋年代的再推定」(「中國歷史博物館館刊」一三・一四、一九八九)、87陳昭容「秦公簋的時代問題」(「中央研究院歷史語言研究所集刊」六四・四、【一九九三】)、88李學勤「論甘肅禮縣銅鐙」(「綴古集」、上海古籍出版社、一九九八)、89李學勤・艾蘭「最新出現的秦公壺」(同)、90韓偉「論甘肅禮縣出土的秦金箔飾片」(「文物」一九九五・一六)、91陳昭容「談新出秦公壺的時代」(同)、92白光琦「秦公壺應爲東周初期器」(「考古與文物」一九九四・一四)、93趙文匯「秦公簋與西縣」(「禮縣文史資料」二)、94李朝遠「上海博物館新獲秦公器研究」(「上海博物館館刊」七、【一九九六】)、95同「上海博物館新藏秦器研究」(同九、【一九九八】)、96同「倫敦新見秦

公壺」(「中國文物報」二〇〇四・二二—二七)、97賈利民「簡論先秦祭器」錄宗彝及其產生背景」(「天水師範學院學報」二〇〇〇・一二)、98陳澤「秦公簋銘文考釋與器主及作器時代問題的推定」(「古代文明研究通訊」九、【二〇〇〇】)、99李學勤「秦子新釋」(「文博」二〇〇三・一五)、  
【發掘紀實】100戴春陽「禮縣大堡子山秦公墓地及有關問題」(「文物」二〇〇〇・一五)、101同「禮縣大堡子山秦國墓地發掘散記」(「甘肅文物工作五十年」專輯)  
102【編後記】

この種の書物の最大の利點は、日本の大學圖書館などに所藏されていない書籍・雜誌から轉載されたものを收録することである。本書でとくに注目されるのは、78・85の『天水出土秦器匯考』(一九九四)であり、これは中國でも稀覯本であるらしい。また、41・68「絲綢之路」(甘肅絲綢之路協會・西北師範大學)、42「華夏文化」(陝西省軒轅帝研究會)、51・97「天水師範學院學報」、54「隴右文博」、59「禮縣文史資料」、66「天水行政學院學報」、70・93「禮縣文史資料」などの地方的な刊行物はよほ

どの專家でない限り日常的に目を通す機会がなからうし、55全國十三屆諸葛亮研討會論文・67陝西秦文化研討會交流論文などもまず入手できない。

本書に限ったことではないが、中國のアンソロジーの通弊として、個々の論文の出版に關する記述が杜撰であることをやはり指摘せねばならない。そのようなことを氣にしない國風といわれればそれまでだが、刊號に年次を用いるものでなければ、雜誌の刊行年次はわからない。上掲の目録につき、筆者が調べ得たものについては【】で刊行年次その他を補つておいた。41《絲綢之路》專輯・68《絲綢之路・文化》總第七期や、51《天水師範學院學報》・97《天水師範學院學報》は同じ雜誌であるはずだが表記が統一されていない。未見なのでこれらは原表記のままにしておいた。さらに65について原表記には《秦俑秦文化研究》專輯とあり、一見そのものの如くだが、實はこの論文は『秦文化論叢』九に收録されている。一九八〇年代以降の定期刊行物は、相應の環境を整えれば、中國のいくつかの電子圖書館でおおむね閲覽できる現狀であると

はいえ、自分で費用を負担して検索・閲覧する手間を考えれば、このような企畫にはなお一定の價值があるといえよう。それだけに書誌情報の不備は遺憾であるといわざるを得ない。

### 参考文献

- 戴春陽二〇〇〇「禮縣大堡子山秦公墓地及有關問題」、「文物」二〇〇〇—五。  
 禮縣博物館・禮縣西垂文化研究會二〇〇四『秦西垂陵區』、文物出版社。  
 李朝遠一九九六「上海博物館新獲秦公器研究」、「上海博物館集刊」七。  
 李學勤二〇〇四「序」、禮縣博物館・禮縣秦西垂文化研究會二〇〇四所收。  
 松丸道雄二〇〇二「秦國初期の新出文物について」、「日本秦漢史學會會報」三。  
 「祝中熹二〇〇四「秦西垂陵區」、禮縣博物館・禮縣秦西垂文化研究會二〇〇四所收。  
 二〇〇五年四月 北京 文物出版社  
 十六開 四十二—五十九頁  
 一五八元